

令和2年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	5	学校名	静岡聴覚特別支援学校	校長名	庄司 達夫
------	---	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	◎成果と●課題
ア	学校安全、健康管理、危機管理の体制整備と様々な災害に備える防災教育	○防災防犯対応力が向上した教員AB100% ○学校は実態に合った防災教育を行っている と答えた保護者 AB90% ○約束を守って避難できた幼児児童生徒 AB90% ○体罰ゼロと答えた保護者、児童生徒 AB100 % ○情報共有したことで事故を未然に防ぐことができた教員 AB100 %	AB96% AB100% AB100% 保護者 AB100% 児童生徒 AB89% AB96%	B	◎コロナ禍でできる範囲の訓練ができた。少人数での避難訓練や事後指導では年齢に応じた内容で指導できた。引き渡し訓練はより実際に近い方法を探りながら実施できた。 ●子どもたちの居住地域が広い。津波や土砂災害危険地域に居住する家庭への対応が課題である。 ◎おかしいと思う指導を見た時は教員間で指摘し合える関係を構築してきた。 ●個別に聞き取りを行い、丁寧に対応した。これまで以上の教員の意識向上が必要である。 ◎素早く情報提供してきたことで、教員の危機管理意識を高めた。
イ	他者を尊重し、思いやりの気持ちを大切にすることができる子どもの育成	○他者を尊重し、思いやりの心を育てることができた教員 AB90% ○友達の良さを認め、誰とでも仲良くすることができたと答える保護者、幼児児童生徒 AB90% ○人権意識が向上したと答える教員 AB90%	AB79% 保護者 AB96% 児童生徒 AB100% AB100%	B	◎教員が常に人権を意識しながら指導に当たることができた。 ◎事案に対して学部を超え、学校組織で丁寧に対応することができた。 ●適宜指導している。個別案件を積み上げ、丁寧に引き継いでいくことが必要。 ●障害の多様性を認め合う学習環境、教育課程の工夫が必要。 ●障害特性を理解した上で人間関係のトラブルを未然に防ぐことができる教員の専門知識の習得が一層求められる。

ウ	<p>健康な生活を教職員も実践（業務改善）</p>	<p>○時間外勤務が月45時間以内の教職員 AB90%</p> <p>○時間外勤務が月80時間以上の教職員ゼロ</p> <p>○設定された退庁時刻を教職員全員が守る</p> <p>○ワークライフバランスが整った教員 AB80%</p> <p>○相談しやすい職場と回答する教員 AB90%</p> <p>○衛生面で職場環境が良いと答える教員 AB90%</p>	<p>AB78%</p> <p>月80時間超え 0人</p> <p>AB92%</p> <p>AB87%</p> <p>AB100%</p> <p>AB83%</p>	<p>B</p> <p>◎管理職や教務課の繰り返しの声掛けがあり、職員の意識が高まった。</p> <p>◎優先順位をつけ、計画的に業務を行う教員が増えた。</p> <p>●日々変わる子どもの様子に対応するための臨時会議が多かった。会議終了後の授業準備が時間外勤務となった。今後、行事や会議の精選、より適切な授業時間数の割振りが必要。</p> <p>●ワークライフバランスが整ったかどうかは個人の主観で評価基準が統一できなかった。ストレスをためないよう、風通しの良い職場環境を整えることが必要。</p> <p>◎日頃から相談しやすい職員集団を構築している。大きく体調を崩す職員はいなかった。</p> <p>◎養護教諭を中心に職場環境を整えてきた。修理を要する部分は即時対応できた。</p> <p>◎こまめな消毒やマスクの着用を徹底し、感染を防ぐことができている。</p>
エ	<p>ICTを活用した効果的な学びの実践</p>	<p>○ICT活用は学びを深めるために有効であると回答する教員 AB80%</p> <p>○補聴援助システムや音声認識システムなどを活用できた教員 AB100%</p> <p>○学校はICT教育を取り入れていると思う保護者 AB80%</p> <p>○ICTを活用したことにより授業がわかるようになった児童生徒 AB80%</p>	<p>AB100%</p> <p>AB100%</p> <p>AB88%</p> <p>AB89%</p>	<p>A</p> <p>◎推進委員会を設置し、ICTを推進したことにより、PCやタブレット、インターネットなどを活用する教員が増えた。</p> <p>◎休校期間中の登校日に保護者にオンライン説明会を実施した。学部ごと読み聞かせや体操などの動画を配信した。</p> <p>◎休校期間中、家庭と学校をつないで健康観察や補習を行うことができた。</p> <p>◎オンライン研修などに参加し、充実した職員研修ができた。</p> <p>◎ロッジャーの数量増加で常時使用できるようになった。</p> <p>●教員はもとより、子どもたち自身がPCやタブレットを活用できるようにしていくことが必要。</p>

様式第3号

オ	<p>子どもの学びを支える教職員の専門性の向上 (障害特性を踏まえた教科指導の充実)</p>	<p>○個の実態に応じ、聴覚障害の特性に配慮した授業ができる教員 AB90 % ○スキルちゃんを意識して幼児児童生徒に関わることができた教員 AB90%</p>	<p>AB100% AB100%</p>	A	<p>◎一人一授業を行い、研修成果を学部内で共有できた。 ◎外部の助言者から実態把握や具体的な指導方法を学び、指導を振り返るきっかけになった。 ◎スキルちゃんを校内各所に掲示し、障害特性への配慮を常に意識することができた。 ●校内には様々なキャリアの教員がいる。経験豊かな教員の知識と技能を若手に伝え、育成していくことが必要。</p>
カ	<p>子どもが主体的に学び合い、「授業が楽しい」「授業がわかる」といえる授業づくり</p>	<p>○幼児児童生徒が主体的に学びに向かう授業づくりができた教員 AB90% ○授業が楽しい、授業がわかると答える幼児児童生徒 AB100% ○学校の授業はわかりやすいと思う保護者 AB90% ○学部研修や一授業を通して授業改善できた教員 AB90%</p>	<p>AB96% 楽しい AB100% わかりやすい AB100% AB92% AB91%</p>	A	<p>◎子どもたちにとってわかりやすいかを常に考えて授業づくりに努めることができた。 ◎子どもたちは授業が楽しく、わかりやすいと回答した。 ●教員は重複障害に対する指導技術を高め、個に応じた指導の充実が必要。 ◎スケジュール調整に苦労したが一授業では、多くの職員から意見を聞き、授業改善できた。 ●所属学部だけでなく、乳幼児教室、幼稚部、小学部、中学部と縦のつながりを意識しながら指導をすることが必要。 ●実態に応じた教育課程の見直しが必要。</p>
キ	<p>発達段階に応じた生活言語の獲得と定着 (乳幼児教室)(幼稚部)</p>	<p>○乳幼児の発達に関する保護者学習会を年間3回実施する。 ○保護者学習会を年間9回、おしゃべり会を年間11回実施する。 ○学習会に満足した保護者 AB100%</p>	<p>実施できた 実施できた AB%100%</p>	A	<p>◎1歳児教室では2回、2歳児教室では5回実施できた。内容は子どもの育ちと保護者のかかわり方など。言葉の発達に対する保護者の意識が高まった。 ◎幼稚部では、保護者学習会8回、おしゃべり会9回実施できた。聴覚障害に関することだけでなく、幼児期の子どもの発達を促す親子のかかわりを深める活動になった。</p>

様式第3号

ク	<p>発達段階に応じた日本語の向上及び手話力の向上(小学部)(中学部)</p>	<p>○読み聞かせや読書の時間を週1回以上実施する。 ○日記や感想文の指導を通して子どもたちの日本語力が向上したと答える教員 AB80% ○自分の手話力が向上した教員 AB80%</p>	<p>AB77% AB91% AB92%</p>	<p>B</p> <p>◎図書・読書推進委員会を中心にコロナ禍でできる活動を行った。11月の「秋の読書月間」では、ペア読書を行った。教師のおすすめの本を子どもが読み、感想を書いた。読書への関心を高めることができた。 ●休校期間中の遅れを取り戻すため教科指導時間の確保が優先され、読書時間の確保が難しかった。 ●学部によってコミュニケーション手段が違うので手話力だけでなく、キューサインの習得も必要との意見がある。</p>
ケ	<p>地域から信頼される学校づくり</p>	<p>○学校は学校周辺地域とつながりがあると答えた保護者 AB100% ○中部地区保健センター巡回参加者の満足度 AB100% ○監査における指示注意0件 ○学校経営予算の計画的な執行 12月末執行率 60%</p>	<p>AB92% AB95% 指示注意無し 執行率 64%達成</p>	<p>B</p> <p>◎規模を縮小して防災教育推進のための連絡会議を行い、地域防災体制の確認ができた。 ●今年度に限ってはコロナ禍で地域と直接つながることは困難だった。感染防止に配慮しながら可能な方法でつながっていききたい。 ◎中部地区保健センター巡回ではおおむね満足いただけた。 ●既に知っている内容だったという参加者の意見があった。次年度に引き継ぎたい。 ◎事務部のチェック体制を整え、法令を遵守した事業執行ができた。 ◎学校経営予算の有効的な執行を常に心がけ、全職員に共通理解を図り、教育効果を高める運用ができた。</p>
コ	<p>地域資源を活用した効果的な学習活動の実践</p>	<p>○地域資源を活用できた教員 AB90% ○各学部で地域とつながりをもつ。</p>	<p>AB86%</p>	<p>C</p> <p>◎コロナ禍で可能な範囲での活用に努めた。 ●つながりが少なかった。感染状況により幼児児童生徒の安全を第一に考えた上で、できることを行っていく。</p>
サ	<p>交流籍に基づく、双方に効果的な交流及び共同学習</p>	<p>○交流籍による交流の良さを実感できたと答えた児童生徒、保護者、交流相手校 AB90% ○交流校(大き</p>	<p>児童生徒 AB100% 保護者 AB100% 交流相手校 (12校中10校回答) AB100%</p>	<p>B</p> <p>◎実施者数は幼2人、小13人、中2人。 ◎交流校と事前の打ち合わせを丁寧に行った上で実施できた。 ◎居住地域で声をかけてもらうなど関わりが広がった。 ◎子どもたちは意欲的に取り組むことができた。聞き取れなか</p>

様式第3号

		な集団)で聞こえへの配慮を依頼できた児童生徒 AB80%	AB73%		った時の対応に課題がある。全て聞き取れたという意見もあった。 ●両校にとって学びのある交流ができるよう一層の理解啓発が必要。
シ	在籍校と連携した通級指導教室の運営	○在籍校訪問の実施率 90% ○在籍校への支援を行い、理解、連携が深まったと答える地域支援部教員 AB90%	AB98% AB90%	A	◎在籍校 40 校中 39 校で在籍校訪問を実施できた。 ◎在籍校によって違いはあるものの、本校教員が訪問することで共通理解を促す機会となった。